

みらいふ。 ビジネスレポート

11月号

November
2019年



いまや1つの企業が国境を越えて活動するのが当たり前な時代。複数の国がその会社のビジネスのやり方を受け入れ、事業活動を行っています。日本にもたくさんの外国人が来てそこには日々さまざまな齟齬やぶつかり合いが起っています。そのほとんどは、どちらがいい悪い、正しいか正しくないかではなく、そもそも文化背景が違うので、違和感や誤解が生まれているだけなのです。

たとえばグローバル化という言葉。随分前から使われていますが、もしかしたらグローバル化自身も間違っただけ受け取られている可能性があります。

グローバル化というと、英語が堪能で、ビジネスにおいてはアメリカの名門と呼ばれる大学でMBAをとっていたりする人が活躍する姿を想像するのではないのでしょうか。とかくアメリカがグローバル社会の中心のように思えますが、世界という舞台を俯瞰するとそうではありません。むしろアメリカ人の考え方はほかの国からかけ離れているケースが多いのです。

ありがちなのが、欧米駐在経験豊富な人がアジアに赴任したりすると、現地の人の良い点を見ようとせず、悪い点ばかりに注目することです。そのため互いに相互理解が進まず、壁やわだかまりが残るケースが多いのです。

少しグローバル会社の会議をイメージしてみます。出席者の誰もが自分の意見を結論から先にロジカルに述べ、ファシリテーターがきちんと結論に持っていき、明確な判断を下す。

実際にはそんな会議ばかりではありません。当然議事通りに進まない国も多く、その場で新しい

誤解だらけ！経営者が知るべき グローバル化時代に求められる真の異文化適応力

株式会社みらいふ
ファイナンシャルプランナー 梅田 道明
〒615-0885
京都市右京区西京極午塚町30
Tel : 075-863-0808 Fax : 075-863-0809
E-mail : news@k-milife.co.jp
URL : http://www.k-milife.co.jp

議題が提案され、そのまま進行するような場合もあります。また時間も予定通り終わるとは限りません。それどころか意見を求めてもほとんど出てこない国もあります。

そういった国ではどうすれば、うまく議事進行ができ、結論にもっていくことができるのでしょうか。みんなに建設的な意見を述べてもらうためにはどうすればいいのでしょうか。

相手を傷つけないアドバイスをするにはどうしたらいいのでしょうか。

そこで注目されているのが、異文化への適応力です。この異文化への適応はIQやEQと並んでCultural Intelligence = 文化の知能指数と言われ、いま最もHotな能力とされています。

内外で一気に進む国際化で、経営者はどんなマネジメントを心がけていけばいいのでしょうか。2020年以降、生き延びていくための正しい異文化への適応力を学びます。

プラスα 豆知識

- ① 世界では会議1つとってもいろいろなスタイルがある
- ② オランダ人と議論するのは大変？
- ③ 日本人は集団主義と個人主義の間
- ④ イタリアとカナダでは論の組み立て方が逆
今回の記事でお伝えしきれなかった豆知識。ぜひ小冊子(A4判12枚)にてご確認ください。

いますぐ
ご返信下さい

さらに詳しい内容を無料情報誌(A4版10P)としてメールにてお届けします

下記申込みフォームにてご記入しFAXにてご送信いただくか、下記アドレスよりビジネスレポート申込みと記入の上ご送信ください。

FAX : 075 - 863 - 0809

会社名 :	部署 :	お名前 :
住所 :		Tel :
E-mail :		Fax :

* ご登録いただいた個人情報は、弊社サービスの提供・案内及び今後役に立てるため使用しその目的以外に使用することはありません。